

2016年02月21日(日) 千里キリスト教会 主日礼拝説教

聖書箇所 詩篇 146 : 01~10

説教主題 「わが魂の救い主なる神」

説教者 徳本 篤 師

---

## 序文)

詩篇 146 篇から 150 篇は「ハレルヤ詩篇」のシリーズとしてまとめられています。

それぞれの詩篇の違いは新約聖書の四つの福音書がそれぞれに違った視点から主イエスのご生涯をあらわすように、146 篇は「唯一の救い主」、147 篇は「愛と力の神」、148 篇は「天地の創造主」、149 篇は「栄光と力の神」、150 篇「主を賛美する民」というように、主のご性質やみわざのそれぞれの特徴についてほめたたえるように構成されています。したがって今日の詩篇 146 篇は「救い主なる神」をほめたたえる詩篇ということになります。

## 本論)

この詩篇の最初に出てくる、ハレルヤの意味は：ハレル（ほめたたえる）ヤ／ヤーウエの短縮形です。

ヤーウエとは、イスラエルの神の名前をあらわします。**出エジプト 3 章 14 節**にその詳しい説明がなされています。神がモーセにご自分の名前を「わたしは『わたしはある』という者である。」と自己紹介された個所です。「ある」とは、ヤーウエの神が「あらゆるものの根源、永遠に独立した存在」であられることをあらわします。

神の御名について、**出エジプト 3 章 15 節**では「神はさらにモーセに仰せられた。『イスラエル人に言え。あなたがたの父祖の神（エロヒーム）、アブラハムの神（同）、イサクの神（同）、ヤコブの神（同）、主（ヤーウエ）が、私をあなたがたのところに遣わされた、と言え。これが永遠にわたしの名、これが代々にわたってわたしの呼び名である。』」というように説明が加えられています。

例えば私の固有名は徳本篤です。父母にとっては息子、妻にとっては夫、子どもにとっては父、教会においては牧師です。それぞれの立場や関係によって呼び名が変わりますが、私という固有の存在は一つです。

同じようにヤーウエは神の固有名です。それが誰々の主と呼ばれ、誰々の神と呼ばれようと、ヤーウエという固有の存在は一つです。「あらゆるものの根源」、「永遠に独立した存在」である唯一の神です。

## 洞察)

イスラエル人にとってヤーウエという神の御名は自分たちの先祖の神であり、自分たちが存在する意味と価値そのものでした。ヤーウエの神の存在を否定することは、自分自身の存在を否定することになります。彼らにとって神の御名はそれほど重要なものでした。

イスラエル人がハレルヤ（主をほめたたえよ）と神を賛美するとき、彼らは自分が主に属する主の民であることを意識していたことでしょう。彼らの賛美は、自分が主の民であるという誇りであり、主が選ばれた者であるあかしでした。神を賛美するとき、彼らのたましいは、自分たちの存在がそのような者であることを喜ぶとともに、自分たちが主ヤーウエとともにあるという揺るぐことがない希望と確信に満たされていたことでしょう。

## 適用)

さて、異邦人である私たちがイエスキリストを信じることによって救われ、神の民の交わりに加えられたということがヨハネの福音書 1 章 12 節、13 節に書かれています。

「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」

従って、私たちが賛美するときも、イスラエル人と同じように主の民であるという自覚をもって、その信仰と確信を大胆にあかすべきです。私たちがひとつである証拠はこの確信と信仰においてのみそうなのです。

## 応答)

ところで、今日の説教主題は「わが魂の救い主なる神」でした。詩篇 146 篇 3 節から 10 節までには具体的な救いのみわざについて賛美されています。私たちはこの作者のように賛美できるでしょうか。

確かに、私たちの現実の生活に目を置くと、この世の中には様々な不正や苦悩、悲しい出来事が多く見られます。それは私たちの神がこの世にあって何もできない弱い方であり、天と地を創造された方の計画は失敗だったということでしょうか。

私たちは今日のみことばからしっかりと悟るべきです。聖書は死ぬべき人間に頼ることの限度を明らかにしています。人はどんなに理想的なこと、立派なことを約束しても、彼が死んだその日に、彼のすべての計画は消滅してしまうものです。

聖書は、私たちが現実の厳しい生活の中においてもヤーウエなる主の恵みとあわれみに目を置くべきだと諭します。あらゆる出来事があっても、それを神が与えてくださる救いの機会となることを期待すべきです。

どんな時でも失望しないで、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である、生ける主ヤーウエの御名をほめたたえましょう。主の民である私たちはそのように賛美し、主の御名によって主のみこころが私たちの住むこの地のうえに実現されることを確信と忍耐をもって期待し続けるのです。ハレルヤ。